



# 寄のこれから

カーン・アーシフ  
KHAN ASIFさん(弥勒寺在住)

## 横浜から松田町寄に移住

私たち家族が寄に引っ越してきたのは2018年4月のことです。「自然のあるところで子育て」、「地域に根差した暮らし」等、夫婦それぞれ想いがあり、遠くは岡山まで見に行きましたが、妻の実家から程近い、この地にたどり着きました。足掛け8年の結論でした。

## 寄の印象

初めて寄に見学に来た時、私は本当に驚きました。都心からこれ程近くて、便の良い所に、こんなに緑豊かで美しい場所があったのかと。私と妻の直感、土地とのご縁が重なり、約半年後には寄に転居を果たしていました。

寄に住み始め、私は可能な限り様々な所に顔を出しました。草刈りと飲み会、自治会の運動会、寄神社例祭、納涼祭など。その中で、印象付けられたのは、寄の「地域力」の強さです。土地を受け継いできた地元住民を筆頭に、寄に魅力を感じ移り住んできた住民もこれを引き継ごうと協力し合う姿を見ました。人と人の繋がりが希薄な時勢の中、こうした協働の文化を未だ残す寄を心から素晴らしいと思いました。

## 今、そしてこれから 母国に想いを馳せながら

移住して1年半、今、私たちが強く思っているのは、寄の素晴らしさを後世に残すため、「10年後を想像しながら、今を創る」必要があるという事です。なぜなら、自然環境も、コミュニティも、「今まで通り」を続けても「変わ

らない」を実現する事は出来ないからです。それは、寄の子供が激減している現状が証明しています。そして行動を起こす時、それは「今」だと感じています。妻が計画中の地域カフェを足がかりに、微力ながら、私たちも考え行動していきたいと思っています。

さて、私の母国インドでは、大きな菩提樹の木陰でお茶を飲む光景があちこちで見られます。暑さをしのぐ木陰を求め人が集まり、そこは憩いの場となる訳ですが、その場は人と人との繋がりを深め、確認する大切な時間を育んでいます。私は寄にもそんな場所が必要だと思っています。

そこで、住みよい寄のために私からひとつ提案です！

寄に公園を創っては如何でしょう？今の寄には、子どもがのびのび遊べる場所、水を飲む場所、休憩する所がありません。山歩きや観光で来られる方にも、子どもにも住民にも開かれた「居場所」がないのです。

★散歩コース、居心地のいいベンチと屋根、筋トレ器具、間伐材利用のアスレチック、自転車で走ってよい広場、放課後そこが子どもの居場所になります。駅周辺地区や町外から寄に遊びに来る子供たちも増えるでしょう。地元で愛される自然を利用した公園、二宮の吾妻山公園などをお手本にアレンジして、寄ならではの素敵な公園を一緒につくりませんか？実現すれば私が大きな木陰でチャイ屋（インドの茶屋）をやりたい♪



田代橋にて

※「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体が、このコーナーに掲載を希望される場合は下記までご連絡ください。



編集  
あとがき

猛暑の夏もいつしか過ぎ去り、過ごしやすい秋が深まって参りました。

この度の台風15号では姉妹町の千葉県横芝光町が甚大な被害を受け、本町にブルーシートの要請があり、近隣の市町の協力を得て千枚をお届けし、とても喜ばれたと伺いました。

さて、議会広報広聴常任委員会も新メンバーでスタートし、これまで開かれた議会を目指し試みてきた事を、さらに推進して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

(南雲)

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議会広報広聴常任委員会
大館	飯田	田代	古谷	唐澤	南雲	
秀孝	一実	工人	士人	一代	まさ子	